

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106688		
法人名	社会福祉法人旭川荘		
事業所名	グループホーム よしい川		
所在地	岡山市東区西大寺浜608		
自己評価作成日	令和 2 年 8 月 20 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&ligvosocd=3370106688-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 2 年 9 月 15 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念の“自立”と“尊厳”、サービスの3原則の“もてなし”“こころよさ”“きぼう”を共有し、お一人おひとりの「出来ること」「したいこと」や思いを汲み取り、穏やかに笑顔で過ごしていただけるようにケアしている。また、週に1回の訪問看護師による観察も含め、健康面への配慮やきめ細かいケアを行い、心地よく安心して過ごして頂くことが出来るように努めている。29年7月からスタートした共用型デイサービスは、利用者が1年ほどいない状態ではあるが、地域との結びつきを深め、在宅の高齢者の方やご家族のサポート、スムーズな入居へ繋がるようにするため、引き続き認知度を高めていきたい。

また、敷地内の散歩や、季節にあった野菜や花などを栽培、収穫し、目で楽しんだりもしている。以前は、同じ建物内の子育てひろばに遊びに来ている地域の親子連れや、敷地内の有料老人ホームの利用者、専門学校の学生、ボランティアの方との交流、オレンジカフェの開催もあったが、現在は新型コロナウイルスの影響で交流も自粛している。この状況のなかであっても、日々関わる職員が意識を高くもち、利用者の暮らしに潤いをもたらすようなケアを行うことで、居心地よく、幸せだと感じる住まいとなるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が楽しく紙風船投げをしていた。1週間に2回レクチャーができるように職員が隣接の子育て広場の保育士に依頼をした成果がそうだ。評価時は敬老会ということで、他の施設にはない楽しい場を形成し、その間に、職員は日頃できていないところにも目配りし、ゆとりをもって利用者の安全や企画を職員同士が話し合う場となり、とても有意義な時間となっていた。母体の施設だけでなく様々な業種の方の意見も参考にし、新しい施設への在り方を如実に活かしている。こんなコロナ禍でも、新しいことにチャレンジする職員の気持ちが、今此処にヒシヒシと伝わってきたところが感動的だった。職員が利用者笑顔で対応しているところを垣間見ると、すべてが裏付けられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践にっなげている	基本理念である「自立」と「尊厳」を軸に“もてなし”“こちよさ”“きぼう”を三原則とし、施設内に掲げるとともに職員間でも確認し合える場を設け、安心して過ごせる環境づくりに努めている。	月に1回のミーティングにて、経営理念の確認を行っている。また、職員資料の中にも理念が書かれており、職員の中で共有することができている。事務所入り口にも経営理念の掲示がされていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ以前は、隣接の施設での認知症カフェや併設の子育てひろばを利用される地域の親子、厚生専門学院生との交流など、触れ合う機会が多く、地域の夏祭りや行事にも参加していた。秋の環境福祉フェアも定着しており、地域の方の来場者も多かった。	フリーマーケット、写真コンテスト、ポニーとのふれ合う行事に多数の地域の人々が参加している。地域交流ができている。毎年秋ごろに行事を予定しているが、今年度はコロナの影響もあるので、実施に関しては市と連携して検討していく。	コロナだからこそ、その中で収まることなく、新しいことにチャレンジしてみたいかでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で家族を含めた地域の方に現状や関わり方など伝えている。また、管理者は地域の公民館などで介護講座の講師もしており、地域の人と認知症についての理解を深めるとともに関係づくりも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の終りに開催しており、事業所の現状やヒヤリハットなどの報告を行い、意見交換をしている。ご家族からの悩みや思いも聴き、把握したうえで職員間で共有し、サービスの個別化につなげている。	推進会議は2ヶ月に1回開催しており、市の包括、町内会長、民生委員、ご家族の方が参加している。グループホームの現状報告や情報交換を行い連携を深めている。また、ご家族同士の交流の場ともなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター、市の事業者指導課に運営推進会議の案内をし、毎回出席がある。また、質問や相談などあれば連絡し、協力関係を密にするよう努めている。	電話やメールで情報交換を行っている。また困ったことがあれば資料を提供してもらったり、アドバイスをもらったりして、市町村との連携が途絶えないようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指針を定め、職員間で共有している。毎月のミーティングでも身体拘束防止委員会を開催し、現状の把握と、身体拘束は原則行わないことを確認しあっている。また、研修も年に2回は行い、机上で学ぶ機会も設けている。	身体拘束に関する研修を施設内で年2回行った。また、GH協会が主催する研修に出向いたりもしている。定期的に自身の振り返りアンケートを実施して、お互いの気づいた点を共有し、実践に活かせるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の理解に努め、毎年、研修を行っている。また、外部への研修参加した場合は、他の職員にミーティングなどで伝達したり、普段から職員間でも啓発合っている。管理者は、職員が疲れやストレス等たまらないよう配慮、観察している。今年度は振り返りのアンケートも行い、他者の意見からも感じるものを得ることができるよう機会も設けた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用については、必要に応じて説明や紹介を行なうとともに、関係機関とも随時連絡や情報交換できるようにしている。職員に対しても、権利擁護について学習の機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に見学していただいたうえで、重要事項説明書も渡し、説明している。契約時には不安や質問などがないか尋ねながら、最終確認とともに、丁寧に説明を行っている。また、法改定等についても、変更前に説明・相談等を行い、随時、補足を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、利用者の日常の状況報告を行うと共に、要望等を聴き、ご家族との関係性の構築に努めている。要望等があった場合は、管理者に迅速に伝え、必要時には電話などで意向の確認を行ったうえでミーティング・申し送りノートで共有し、早急に対応している。	毎月、ご家族の方が来られるので、その際に近況報告やご家族の意見を聞いている。コロナ禍でも、玄関先で会話スペースを設けたり、時間短縮したりするなどして、ご家族との連携をとれるように工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りでの情報・意見交換の他に、月1回の会議で、意見や提案等を聞く機会を設けている。29年度から導入した、気軽に思いを記入出来る「気づきノート」は、申し送りノートと一体化したが、活発に意見や提案が記入されており、お互いの思いの確認や、ケアのヒントを得ることも多く、ケア向上へと繋がっている。	気づきノートを活用し、常日頃から職員の意見を取り入れ反映できるようにしている。状況に応じては、管理者が直接話を聞く場合もある。半年に1回、職員との個別面談を行うことによって、職員の声に耳を傾けることができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の特技を活かした役割分担を行い、研修参加や過労防止に配慮した勤務体制とし、健康で、やりがいを持って働けるようにしている。評価すべきところや外部からの嬉しい意見は、本人や職員一同に伝え、モチベーションを上げることに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ以前は内・外部の研修には、多くの職員が受講参加できるようにしている。また、研修報告については、ミーティングで発表したり、報告書も自由に閲覧できるようにし、知識の共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会へ入会し、情報収集や研修へも積極的に参加するようにしている。また他の事業所との情報交換も随時行うようにし、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人よりしっかりとアセスメントを行い、現時点での困っている事等の不安要素を普段の関わりから情報収集する。ミーティング等で職員間で共有し、新しい暮らしが楽しめるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、ご家族からも困っていること、不安に思っていることについて情報収集し、職員間で共有するよう努めている。また、面会時や定期の状況報告等で現状を報告するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接で得た情報はスタッフ間で共有し、プラン作成に活かしている。また、プランについても実際にサービス開始となった後もミーティングで再度検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの「出来ること」「やりたいこと」を把握し、可能な限り食事作り・配膳・片付け、洗濯物干し・片付け等、ご利用者の方とともに行い、「ありがとう」と言える機会を増やし、安心して寄り添えるような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や定期の状況報告で、ご利用者の日々の様子について報告するとともに、買い物、外出、電話での対応等、協力してもらえることは可能な限り協力してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の祭りに参加したり、ご自宅の様子を観に行ったり、馴染みの理容室にご家族と外出されたり、知人の方が面会に来られたり等、これまでの関係性が維持できるよう努めていたが、現在は自粛している。	コロナの影響で外出は減ったが、敷地内にある畑やプランターや廊下の先にあるソファを休憩場所に見立てたり、藤の花を見に行ったりすることによって、新たな馴染の場所を形成している。広大な敷地を有効活用する様子が窺えた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係、相性を把握した上で、食事の席なども決めている。また、ご利用者同士が関わる時間を持てるよう話題の提供を行ったり、利用者との間に介入し、コミュニケーションが円滑にすすむようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方にも、職員が様子を伺いに訪問したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動、表情や発言から一人ひとりの思いを汲み取り、意向の把握に努めている。また、自身でうまく伝えることの難しい方についても、これまでの生活歴やご家族からの情報提供や協力もあわせ、ご本人の意向に近くなるように努めている。	日々の会話の中から利用者の気持ちを読み取るように工夫している。利用者の何気ない会話でも、職員間で情報共有をしている。備前焼の会話から実際に備前焼を作り外に出したこともあった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントと共に、日々の関わりのなかでご本人の体験談や思い出話を聞き取り、共有している。本人からの情報以外に、ご家族からも情報収集を行い、性格やライフスタイル、好み等を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のケース記録にて1日の様子を記録し、職員間で情報共有できるよう努めている。また、新入居時や薬変更時、体調悪化時、退院時など特に把握が必要な方については、別に記録をとるなどし、把握しやすいようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族から情報提供・要望等を伺い、それに沿ったものを作成している。職員からの意見も勘案し、全体でのミーティング等でプラン立案やモニタリングを行っている。	入所して1か月、半年でプランを作成している。利用者の様子によっては、その都度介護計画の見直しを行っている。また、利用者の状況を第一に考えながら、職員の意見も尊重しつつ、ケアマネージャーが中心となって介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録や申し送りノート、気づきノート、ミーティング等を活用し、職員間で情報を共有し、日々の介護に反映させている。早急に対応が必要なものについてはその都度対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の状況、要望に応じて、ドライブや受診付き添い、買い物代行やグループ外出など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭り、環境福祉フェア等の併設施設の催しや学院祭、春と秋の芋の苗植え、芋ほりなど、学生や子育てひろば利用の親子さんとの交流などを実施していた。月2回の認知症カフェでは、毎回ボランティアの参加があり、地域の方との交流の場にもなっていた。自粛中。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員の入居者は、協力病院の医師がかかりつけ医であり、月1回の往診を受けている。専門受診が必要な場合はご家族に説明を行い、対応している。急な体調不良の場合も、医師との連絡連携体制をとり、早急に対応できるようにしている。	月1回、往診にきてもらっている。かかりつけ医とは、普段から電話やFAXで連絡のやりとりがある。緊急時や夜中でも適切な対応をしてくれるので、安心することができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェック・排せつ確認を行うとともに、体調把握が必要な方はさらに配慮している。週に1回看護師の訪問日があり、専門的健康チェックを受け、爪切りや耳掃除などのケアも行っている。何かあれば相談し、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、支援方法などに関する情報提供を行うと共に、入院中も職員がお見舞いに伺い、状況把握に努めている。家族とも密に連携を行い、安心して治療できるように努めている。退院後も、継続して適切なケアができるよう病院との良好な関係作りに努め、利用者が安心して過ごすことができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した場合や終末期のあり方について説明し、同意を得ている。体調や状況の変化に応じて、その都度、説明や医師との相談を擦るようになっている。また、ミーティングなどで、少しでも負担のかからないケアの方法などを意見交換し、安楽に過ごすことができるように努めるようになっている。	重度化の場合でも、できるだけみんなと一緒にリビングで過ごすようにし、寝たきりの体制をつくらないようにしている。ドクターや作業療法士とも連携し、常に情報を共有できるような体制が整えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生マニュアルを作成し、いつでも確認できるようにし、周知徹底図っている。また、救急法やAEDの研修を定期的に行い、適切な対応ができるよう努めている。また、防犯対策として非常通報装置、防犯カメラも設置し、安心感を持って暮らしを送ることができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成し、定期的に併設施設と合同で、防災訓練(地震・津波・水害・火災)を実施している。年に1回は敷地内の学校とも合同で行っている。ホームのみでも、訓練を実施し、職員間の連携や、改善点など意見をだしあい、実行力を身につけている。また、地元町内会とも協働し、防災対策行っている。	火災、水害、南海トラフ地震の訓練を行った。コロナ対策として、接触や密集を避けるように訓練をする工夫が見られた。また、消防署に依頼し、心肺蘇生の訓練も実施した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格・プライバシーを尊重して、尊厳を守ることができるように言葉使い、それぞれに応じた声かけ、非言語コミュニケーション、介助、態度について、ミーティング等で職員同士で話し合いながら配慮して対応している。	呼称は基本的には「さん」付けで呼んでいる。他の呼び方をする場合は、本人の意向やご家族の了承を得ている。また、気になることがあれば、ミーティング内にて話し合いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれの認知症の症状や特性を理解したうえで、一人ひとりの思いを汲み取り、何をしたいのか、何ができるのか考え、その人に合った家事や活動を日々の暮らしの中で提供したり、動きを見守るなどしている。無理強いを決してしない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「その人らしさ」が実現できる生活となるように、一人ひとりの体調やペースに合わせて、落ち着けたり、楽しめることを見つけている。職員の価値観をおしつけることなく、それぞれが可能な限りご自分で選択し、ご自分のペースで過ごして頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活の延長線上となるように、馴染みの好みの衣類やお化粧道具を準備し、身だしなみやおしゃれに配慮している。また、おしゃれした姿を意識的に褒めることで、喜び、嬉しさを感じてもらい、前向きで明るい気分になることに繋げている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの心身の状態を見極め、食材の調理、配膳、下膳、テーブル拭きなど、出来ることを職員と一緒に、同じテーブルを囲み、安全に楽しく食事をすることができるようにしている。暮らしのなかでリハビリに繋がるよう、出来る限り自立を促し、皿やスプーンを工夫している。また、咀嚼、嚥下不良方には、一口大、刻み、ミキサー食、とろみ剤の使用等、食べやすい形態にすることも対応している。	昼食は、手作りの料理を提供し、夕食については手作りの味噌汁を振る舞っている。また、季節に応じた旬の食材や畑でとれた野菜を使用し、敬老会のイベントでは、ちらし寿司を出すなど、様々な食事を提供することで利用者の楽しみとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好傾向、健康状態、疾患に応じて食事量等配慮している。旬の野菜を使うなどし、彩りや栄養面にも気を使い、食事、水分量などを把握し、食欲が無い時には別のものを提供するなど柔軟な対応を行っている。また、状況に応じて高カロリーゼリーなども使用することもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に合わせて声かけ、見守り、あるいは職員による口腔ケアを行っている。日によりケアが困難時もあるが、プライドを損なわないよう心がけている。また、食事前には口の体操(自粛中)を取り入れ、咀嚼力アップ、誤嚥性肺炎予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターン・排泄サインを把握し、自尊心を傷つけないように声をかけ、定時・随時誘導し、身体機能に応じた介助を行い、自然排泄に努めている。また、利用者の経済面での負担を少しでも減らすように尿量に応じたパットを選択し、状態を観察し随時見直している。	自分からの訴えが難しい人に対しては、きさいなサインを見逃さないように注意し、一人一人に合った適切な言葉かけを行うようにしている。また、食事の前や2時間おきに言葉かけをして、気持ちのよい状況が継続できるように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成し、確認。体操・散歩などで適度に身体を動かしたり、牛乳やヨーグルト、オリブオイルなど提供し自然排便を促している。力む力の弱い方には、トイレ時に下腹部をマッサージしたり、加圧することで排便できることもあり、個人に応じて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に1日おきに実施。身体状況に応じ、福祉用具なども使用。失便・発汗・生活習慣にあわせ、時間も個別に対応。好みの石鹸・シャンプーの使用や、好みに出来るだけ応じた湯温に調整し、満足感のある時間となるようにこころがけている。また、お化粧品やヘアセットなども好みに応じてお手伝いしている。	1日おきに入浴している。急に入りたいという利用者に対しても、その都度入浴を行っている。脱衣所にはエアコンが完備されているので、入浴前後の温度調整がし易くなっている。また、浴槽が桧葉風呂で風情を感じながら入浴することができる。	入浴を嫌がったり、入浴をしても忘れていた利用者にも、入浴を楽しめる誘導や納得できる言葉かけを、もう少し工夫してみたいか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に体操や散歩、活動を行い、生活リズムを整えるよう心がけている。体調等に応じてベッド臥床してもらったり、ソファで休んでもらったりと個人の状態に応じて対応している。就寝前には暖かい飲み物を提供し安眠の支援をしている。暑がり、寒がりなどの好みも把握し、室温や寝具も調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更、追加された時は、薬の注意事項を個人のケース記録や申し送りノートに記載し、職員間で情報が共有できるように努めている。それぞれが服薬しやすいように、薬の形状を主治医とも相談し、とろみをつけたり、ひとつにまとめる、拒否した時には甘い飲み物で服用するなど工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態に合わせ、できる限りご本人の好きなことややりたいことをできるように、ご利用者の情報、趣味等を職員間で共有し、家事や手芸活動、音楽療法といった日々の活動に活かせるよう努めている。体力のない方には、座ってできる家事手伝いなどもはたらきかけ、満足感や自信に繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩など外出の機会を持つようしていた。誕生日のお祝いとしての外出も、希望により行っていた。体調等により長時間の外出が難しい方でも、気候に応じて、リハビリガーデンやホームの周辺を散歩したりしていた。また、ご家族の協力のもと、定期的買い物や外食に行かれる方もいた。現在は、敷地内以外は自粛中。	コロナの影響で外出は減ったが、広大な敷地内を散歩したり、施設内の廊下を歩いたりすることでADLの維持を促している。外出ができないので敷地内への関心が高まり、新たな外出支援場所の視野が広がったと感じられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎週の移動パン屋では、出来るだけそれぞれに足を運んでもらい、好みのパンを選んでもらっていた。また、食材等の買出し等の機会を利用し、買い物の機会を提供し、ご自分で好きな品を選択してもらい、買い物の見守り支援を行っていた。近くのコンビニに飲み物や菓子を買に行く機会もあった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	共用スペースでは、毎月、利用者と一緒に作成した季節感のある大きいカレンダーを飾ったり、生活感や季節感を取り入れ、清潔に居心地よく過ごせるよう工夫している。職員も可能な限り同じように使用し、気づきを得られるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースでは、毎月、利用者と一緒に作成した季節感のある大きいカレンダーを飾ったり、生活感や季節感を取り入れ、清潔に居心地よく過ごせるよう工夫している。職員も可能な限り同じように使用し、気づきを得られるようにしている。	利用者全員が快適に過ごせるように、周りに不快を与える行動はしないように心がけている。また利用者の一人一人の思いを汲みとるよう心掛けている。その結果、利用者や職員が笑顔で過ごしている姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	みんなで一緒に体操や活動する時間と、1人で編み物や日向ぼっこ、テレビ鑑賞、新聞を読む時間も大切にしている。また、利用者間の人間関係を把握し、良好な関係の方が一緒に過ごすことができる食卓やリビングの居場所も工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の意向、ご家族と相談の上、たんす・テレビ・ラック・椅子・ソファ等、個々でお気に入りの物・思い出の品など、持ってきていただいている。また、職員同士でも意見交換し、小まめに環境整備も行い、心地よく過ごせるよう努めている。	居室は心地よく過ごせるように家具や家電製品の配置を考え、利用者や家族と相談をして決めている。シーツ交換の際には、利用者の気持ちを配慮して交換を行っている。また夜ゆっくり休めるようにエアコンの微調整も行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごすことができるよう、すっきりと片付け、居室入り口やトイレに表札をつけることで、場所を認識できるようにしている。また、車椅子等歩行の邪魔となるものについては置き場に配慮し、安全に努めている。		